

地域連携活動紹介



地域連携活動紹介パンフレット

立教大学では、大学・学部行事、ゼミナール活動、課外活動（体育会・サークル）などにおいて、地域と連携した活動を数多く行っています。特に、新座キャンパスは、開設当初より「地域に開かれたキャンパス」を標榜し、学園祭IVY Festaをはじめとした、学生の参画による地域連携・地域開放が盛んです。

この冊子では、その中で主に新座キャンパスの学生たちが関わり、埼玉県内を中心とした事例をいくつかご紹介します。地域貢献は大学の大切な使命の一つです。一方これらの活動を通じて、学生も成長します。私たちを取り巻く地域は、もう一つのキャンパスです。

目 次

Scene 1 地域へ開く

聖パウロ礼拝堂（新座チャペル）	1
学園祭 IVY Festa	2
セントポールズ・アクアティックセンター	3
体育会水泳部 水泳教室	3

Scene 2 地域の学び舎

新座市民総合大学	4
新座市内大学公開講座	4
立教スポーツ教室	5
子ども大学ふじみ・子どもスポーツ大学ふじみ	6

Scene 3 知の活用

彩の国いきがい大学	7
新座市長との懇談会	7
新座市ピアソーター	8
地域の宝さがしプロジェクト	8
アスポート事業	8
ふるさと支援隊	9
道の駅との連携	9
しきし ちいさな まちあるき	10
ぶらって新座 まち歩き MAP	10

Scene 4 復興支援

東日本大震災復興支援プロジェクト	11
------------------	----

Scene 5 ボランティア

バリアフリー上映会	12
夏休みの子どもたちとの交流企画	12
ボランティア ONE DAY プログラム	13
学生団体地域活動例	13



※この冊子は2018年7月に制作されました。

※すでに終了しているプログラムも含まれています。

聖パウロ礼拝堂（新座チャペル）

チャペルは、キリスト教に基づく教育を行う立教大学のシンボルとして、様々な学内行事の会場になるとともに、礼拝を始め、公開講演会やコンサートなど地域に開かれた場所となっています。



新座キャンパスのクリスマス

～地域の方と迎えるクリスマス～

毎年、学生たちで結成するクリスマス実行委員会が、さまざまなイベントで立教のクリスマスを創りあげています。クリスマス・イブ礼拝は学生団体による音楽演奏などの礼拝奉仕が行われ、例年地域の方々約300名が参加しています。



キャンドルサービスの様子



「新座クリスマス物語」学生団体によるパフォーマンス

新座クリスマス物語

7つの学生団体が出演し、聖書の内容に応じて歌やダンスや演奏を披露する劇型コンサートイベントです。

新座キャンパスの主なクリスマス行事（2017年度の例）

- 11/28 - 29 チャペルライトアップ 2017
- 12/1 イルミネーション点灯式
- 12/9 オーガニスト・ギルド クリスマスコンサート
- 12/12 新座クリスマス物語～ばかばか～
- 12/17 ハンドベルクワイアクリスマスコンサート
- 12/24 クリスマス・イブ礼拝
- 12/25 クリスマス礼拝



「新座クリスマス物語」学生団体による演奏

学園祭「IVY Festa」

～地域とともに歩む 新座キャンパスの学園祭～

IVY Festaは、学生団体の活動発表の場であると同時に、地域・社会との交流の場として、多くの方々との絆を深める大切な行事です。近隣での知名度も高く、近年は開催期間中にのべ10,000名を超える来場者を迎えます。1998年から始まったIVY Festaは、2017年は記念すべき20回目を迎えました。

クラブ・サークルに所属している学生たちは練習と研鑽の成果を披露し、展示や模擬店を実施するゼミナールや学生団体も工夫を凝らします。ステージでは華やかな演奏会やパフォーマンスなどが繰り広げられ、子ども達が楽しめる企画なども充実し、IVY Festaは「地域のお祭り」として親しまれています。



20周年記念オブジェ



バルーン・イン・ザ・スカイ



学生団体によるパフォーマンス



学生団体による演奏



模擬店の様子



子ども向けの企画



新座市小学生による演奏

St. Paul's Aquatics Center
セントポールズ・アクアティックセンター (SPAC)

～50m × 10 コースの国内最大級の公認競泳プール～

SPAC は、2015 年に新座キャンパスに開設された 50m × 10 コースを備えた国内基準競泳プール仕様の室内温水プールです。立教大学と立教新座中学校・高等学校の授業、課外活動で利用されるほか、学生の福利厚生施設として利用されます。また、新座市民への開放や水泳教室、パラリンピックのための障がい者水泳連盟への貸出等、地域・一般の方にも利用されています。立教学院の体育・スポーツの新拠点として、また、地域社会の健康・体力づくりに貢献する場として今後ますます活用されることが期待されています。



PickUp

2017 年 6 月に立教学院がブラジルオリンピックチームのトレーニングキャンプ施設に決定しました。SPAC は水球、近代 5 種（水泳）の競技チームが利用する予定です。

体育会水泳部 水泳教室

毎年 8 月の夏休み期間を利用して 3 ~ 12 歳の子ども達を対象に水泳教室を行っています。2018 年度で 47 回を数える水泳教室は体育会水泳部員全員で企画・準備から実施までを行い安全で楽しい教室を運営しています。2015 年度からは会場を SPAC に移し天候の影響を受けない教室の開催が実現できました。



新座市民総合大学

～市民の生涯学習をサポートする～

新座市民総合大学（学長／新座市長）は、2000年に開校しました。新座市の生涯学習推進の一環として、市内3大学の後援により、市民がカリキュラムを受講します。

新座キャンパスではコミュニティ福祉学部の支援により「健康増進学部健康づくり学科」を開講しています。修了した市民は「にいざの元気推進員」として地域の健康づくり活動の支援員として活躍することになります。



健康増進学部健康づくり学科

カリキュラム（2018年度の例）全15回

テーマ：広めよう 地域での健康づくり

NO.	講義内容
1	入学式
2	講義「きらきらシニアへの道」
3	実技 正しく歩いて健康長寿
4	実技 呼吸で体を柔らかく 心肺機能アップ
5	講義 運動にはコツがいる
6	講義 脳のメンテナンス～睡眠・運動・こころの関係～
7	実技 お口の元気はからだの元気
8	講義 正しく知ろう認知症
9	実技 学んで動いて認知症予防
10	実技 笑って動いて脳も健康
11	実技 体験しよう「にいざ元気アップ広場」
12	講義 体験しよう「にいざ元気アップトレーニング」
13	グループワーク これからの新座市について考えよう
14	グループワーク みんなで考えるこれからの健康づくり
15	市長講話 修了記念講演 修了式

新座市内大学公開講座

～新座キャンパス3学部による教養講座～

「新座市内大学講座」は、新座市が市民の学習機会拡大の一環として、市内の大学に公開講座の実施を委託している事業です。立教大学では、新座キャンパスの3学部が年度ごとに交代で、市民のための公開講座を実施しています。12月には新座キャンパスでクリスマスコンサートを開催しています。



最近の講座内容

2017年度:福祉学講座「サクセスフル・エイジング実現のために～望む暮らしという視点から考えてみる～」、「廃校を活用する～甦る学校～」

2016年度:観光学講座「国境観光へのいざない～沖縄＝台湾を楽しむ～」、「ラグジュアリーブランドの経営学～高額なのになぜ売れるのか?～」

～クリスマスコンサート～

2016年度より学生団体による演奏を披露しています。アットホームな雰囲気で家族での来場者にも楽しめるコンサートになっています。



立教スポーツ教室

～新座キャンパスに子どもが集うスポーツの祭典～

立教スポーツ教室は、新座キャンパスが開校した1990年以来、毎年開催しています。新座市の子ども約400名が、体育施設の充実した新座キャンパスと富士見総合グラウンドに集まりスポーツを満喫します。「野球」「サッカー」「バレーボール」「硬式テニス」「乗馬」5種目の教室を開講し、それぞれの体育会の部員が練習メニューを作成し、当日の運営をします。毎年参加を楽しみにしてくれている子どもも多く、学生にとっても地域へ貢献ができる貴重な機会となっています。



教室名	講師	参加児童人数
硬式テニス教室	体育会硬式テニス部	60名
バレーボール教室	体育会バレーボール部	55名
乗馬教室	体育会馬術部	20名
野球教室	体育会硬式野球部	16チーム 140名
サッカー教室	体育会サッカー部	7チーム 110名



「子ども大学ふじみ」「子どもスポーツ大学ふじみ」

～地域で地域の子どもを育てる～

子ども大学は、子どもの学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子どもを育てる仕組みを創るために、埼玉県が推進している事業です。本学は富士見総合グラウンドが立地している、富士見市に協力し、子ども大学ふじみの運営に協力しています。

2017年度は、観光学部による新座キャンパスを散策しながら地図を作成するプログラムや、車いすバスケットを通じてのしおうがい者スポーツ体験プログラムなどを提供しました。学生のサポートのもと、子どもたちが真剣に取り組んでいました。

● 子ども大学 「ガイドマップをつくろう」



● 子どもスポーツ大学 「ドキドキワクワク車いすバスケット」



● 子どもスポーツ大学 「馬と友達になって背中に乗ろう」



学部や所属しているゼミナールの専門性を活かし、学生が地域をフィールドにして活動を行っている事例を紹介します。地域を第二の教室として捉え、地域の方々と地域社会づくりを共に行える関係を目指しています。

彩の国いきがい大学

～学生と高齢者の交流授業～

いきがい大学は、埼玉県の高齢者（60歳以上）学習の場として県内に9か所開校しています。その授業の一環として、毎年いきがい大学生約100名とコミュニティ福祉学部長倉ゼミナールの学生たち若い世代が、新座キャンパスで交流授業を行っています。毎回テーマに則したグループ討議で世代の違う学生たちが活発に意見を交わしています。参加した本学学生たちにとっても知識欲旺盛ないきがい大学生から学ぶことが多く貴重な機会になっています。

近年のテーマ

- 2017：サクセスフル・エイジング実現のために
- 2016：高齢者の多様な住まい方
- 2015：オーストラリアから学ぶ
高齢者の自立を支える社会と形成



新座市長との懇談会

～新座市内3大学の学生とともに～

本学を含む新座市内にある3大学の学生が、新座市長に政策に関する質問を行い、企画提案を行っています。本学からはコミュニティ政策学科の学生たちがその専門を活かし、「福祉の充実したまちづくり 子育て支援政策を中心として」「緑地、環境保全のまちづくり」「災害に強いまちづくり」などをテーマに、市長に対して政策提言をおこないます。

近年おこなった政策提言

- ・進展する少子高齢、地域福祉社会に対応するまちづくり
～認知症サポート政策の推進～
- ・進展する少子高齢、地域福祉社会に対応するまちづくり
～18・19歳投票率の向上へ向けて～
- ・市民との連携と協働のまちづくり
～ゾウキリン総合ボランティアセンターの設置～
- ・市民との連携と協働のまちづくり
～アトム通貨の有効活用～

におけるアトム通貨流通の仕組み

新規事業による
活動の拡大

新規事業による
企業との連携



新座市ピアソーター

～不登校や集団不適応の児童生徒への支援～

新座市では、集団不適応や不登校にある児童生徒の心のケアと人間関係作りのスキルを身につけることを目指した活動を行うため、身近なお兄さん・お姉さんの存在の大学生をボランティアとして市立小・中学校に派遣しています。本学もコミュニティ福祉学部の学生たちが、新座市内の小学校で勉強が苦手な児童、集団に適応できない児童に寄り添い、ピアソーターとして支援、交流活動を行っています。



地域の宝さがしプロジェクト

～地域住民との「宝さがし」を通して見えてくる福祉～

新座市北部第二地区地域福祉推進協議会が地域福祉の一環として行っているプロジェクトで、「地域の宝（歴史・施設・人等）」を掘り起こすことによって、人と人がつながり支え合う地域づくりを目指しています。本学コミュニティ福祉学部の学生たちもこのプロジェクトに参加していて、様々な成果物を作成するとともに、地域福祉を実践しています。



ワークショップの様子



まち歩きの様子



宝さがしマップ
(北野八軒屋と野火止用水跡を歩く)

アスポート事業

～進学を目指す生徒の学習支援～

本学は、埼玉県及び新座市が主催する「ASUPORT（アスポート＝「生活困窮者自立支援法」に基づく学習支援事業）」に協力しており、生活保護受給世帯や生活困窮世帯の子どもを対象とした高校進学のための学習教室を新座キャンパス教室で行っています。また、中退防止のため、定時制高校に通う生徒の昼間の生活リズムを整える機会を提供しています。

この学習教室の取り組みは多くの学生ボランティアによって支えられていて、本学の学生も個別に勉強を教える教育支援に携わっています。また、この活動にリンクし、正課科目でも、「自立と社会福祉：生活保護世帯を含む生活困窮者への埼玉県アスポート教育支援」を展開しています。



ふるさと支援隊

～小川町の魅力を発掘～

埼玉県では、大学生による「ふるさと支援隊」を組織し、若い感性や専門知識を活かして中山間地域に活力をもたらす支援をしています。

本学コミュニティ政策学科空閑ゼミナールの学生有志が埼玉県小川町での地域活性化活動を実施しています。



小川高校生徒のみなさんとの地域活性化ワークショップ企画

埼玉県公式インスタグラムアカウント「埼玉わっしょい」を使用した地域活性化事業に参加する「埼玉わっしょい大使」にふるさと支援隊のメンバーが任命されました。

道の駅との連携

～コミュニティの核となる「道の駅」へ～

本学観光学部は全国の「道の駅」と基本協定を締結し、学生の実践的な学びとして様々なプログラムを実施しています。その一環として東ゼミナールの学生たちが埼玉県吉見町の「道の駅いちごの里よしみん」と連携して「道の駅」を舞台とした夏祭りを企画・実施しています。また吉見町の「歳(祭・彩・菜)時記」カレンダーの作成や地元の味「あぐらみそ」を生かした新メニューの企画・立案、さらにはフリーペーパーの作成にも取り組んでいます。



地元のイベントで吉見町観光PR大使「よしみん」のアテンダントをする学生



「道の駅夏祭り」でのいちご染ランタン作りブース



「道の駅夏祭り」の企画アトラクション



いちごで染めた和紙を使用したいちご染ランタン

しきし ちいさな まちあるき

～志木市とコラボした観光ガイドブック～

本学観光学部の麻生ゼミナールが志木市観光協会に協力し、観光ガイドブックの取材・編集に携わりました。「しきしちいさな まちあるき」は、細かな道路表示のある地図と共に名所や旧跡などの臨場感あふれる写真を掲載し、カバンに入れて持ち歩けるようサイズにも工夫を凝らしました。市内の主要公共施設などで配布され、志木市のまちあるきをPRするガイドブックとなっています。



地元の高級タマゴを使った特製プリンと一緒に



しきし まちあるき マップ (表紙／地図 1面)



地域のガイドの方によるレクチャーを受ける

志木市産業観光課スタッフから志木市の観光資源の
レクチャーを受ける

ぶらって新座 まち歩き MAP

～10年目を迎える「ぶらって」シリーズ～

本学観光学部は武蔵野銀行との産学連携協定に基づく取り組みとして、2008年度より、埼玉県の観光活性化を目的に「まち歩きMAP」や「フリーペーパー」を発行してきました。2018年3月に発行された「ぶらって新座」は新座市のグルメに焦点をあて、新座市がブラジル連邦共和国のオリパラホストタウンとなったことからポルトガル語を随所に織り交ぜられた「まち歩きMAP」になっています。



取材で得たデータをまとめる学生ら



掲載する商品の撮影をする学生ら



ぶらって新座 (中見開き)

これまでに発行されたぶらってシリーズ

- ・ぶらって幸手～歴史を感じる街道筋
 - 江戸と昭和に会える街～
- ・ぶらって幸手～美の街、食の街” SATTE”
 - 美味しい、安い、キレイ～
- ・ぶらって幸手～週末、家族幸手日和～
- ・ぶらって羽生
- ・ぶらって行田
- ・ぶらって加須
- ・ぶらって大宮 氷川参道
- ・ぶらって笑顔新聞
- ～西武新宿線マップ付～
- ・ぶらって西武池袋線
- ・ぶらって新座・志木
 - ～未来の3Sウーマン～
- ・ぶらって大宮氷川参道
 - ～想いを紡ぐ十八丁～
- ・ぶらって新座
 - ～知らなかつた、新座絶品グルメ～

東日本大震災復興支援プロジェクト

コミュニティ再生へ

コミュニティ福祉学部は2011年4月、東日本大震災復興支援プロジェクトを立ち上げ、過去7年間に延べ3,400名以上の学生・教職員・スタッフが、コミュニティの再生に向けて合計280回の活動をしてきました（2018年5月末現在）

2018年度からは、3つの拠点に重点化して活動を展開しています。具体的には、災害公営住宅などの交流会、地域の伝統行事やお祭りへの参加を通した継続支援、子どもとの交流や学習支援、震災の記憶の風化防止活動などに取り組んでいます。全学部の学生を対象としており、大学教育や社会への成果の還元を行っています。



④「気仙沼・大島交流プログラム」では災害公営住宅や小学校へ定期的に通い、高齢者や子どもたちとの交流を深めています。

⑤「陸前高田プログラム」では見る、聞く、感じることを大事にした活動を行っています。

●いわき交流プログラム

2014年10月から活動がスタートしました。活動参加人数は延べ214名です。主な活動は津波被害地域でのイベントのお手伝い・災害公営住宅での交流会、また双葉町社会福祉協議会の訪問や原発地域から避難をされている高齢者の方々との交流です。

「現地の方の要望に寄り添う」「学生は現地の方のつなぎ役」という理念で活動をしています。短期間で成果を求める活動ではなく、継続的な交流を通して現地の方の気持ちに寄り添います。

写真上) 双葉町社会福祉協議会サポートサロンにて高齢者の方々と交流している様子です。学生がゲームを考え、ゲームをきっかけに交流しています。

写真下) 震災以降、約7年ぶりに海開きをした海岸の清掃をしている様子です。本学学生も海開きのお手伝いをさせて頂きました。

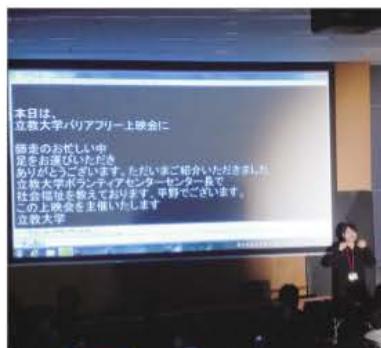


地域の多様なニーズに対応し、大学では、学生団体や個人による様々なボランティアが行われています。その活動をサポートしているのがボランティアセンターです。センターでは、情報の収集や企画の実施、ボランティアに関する相談など行っていて、学生のボランティアを支援しています。ここでは事例を紹介します。

バリアフリー上映会

～みんなで一緒に映画を見る～

学生実行委員会が、ボランティアセンターと市民団体の協力のもと、しょうがいの有無に関わらず誰もが楽しめる映画会を開催します。学生が役割分担をして、バリアフリーの対応として音声ガイド、手話通訳、文字通訳、最寄り駅から大学までの移動サポートなど、丁寧に行っています。



手話や文字による通訳



みんなでストレッチ



参加者を迎える学生たち

夏休みの子どもたちとの交流企画

～地域の子どもたちを大学へ招待～

毎年夏休み、学生団体（こどもクラブ Bambino）がボランティアセンター支援のもと、近隣の学童保育に通う子どもたちを大学に招待しています。2日間で約 120 名の児童が、学生が工夫を凝らしたアトラクションや工作を楽しんでいます。



ボランティア Oneday プログラム in 新座

～ここから広がる出会いの「和」～

学生がボランティア活動を始めるきっかけとなるよう、ボランティアセンターが年度初めに行っている企画です。立教大学ボランティアセンター、学生団体(SEMBRAR)、立教新座高等学校の生徒たちが、新座市北部第二地区地域福祉推進協議会と協力して新座キャンパス周辺の「まちあるき」をしながら交流します。そこでは、ボランティアができる活動場所を巡り、学生たちがボランティア活動に参加するきっかけをつくっています。



PickUp

SEMBRAR

ボランティア・福祉の輪を広げるということが活動理念。地域のしうがい者・高齢者施設、児童施設での活動や地域の福祉イベントへの参加など多様な活動を行っています。

害者福祉会



福祉フェスティバルで新座市団体と出店



Oneday プログラムにて



学生団体の地域活動例

本学の学生団体は地域の催し物に積極的に参加しています。新座キャンパス学生団体の活動の一部をご紹介します。



地域の祭でパフォーマンスをする どりいむ・ぱっくす



地域の祭でダンスを披露する ダンスサークルJ G



新座市交通安全パレードを彩る体育会応援団



新座市睡足軒のお茶会にてお点前をする茶道研究会



立教大学

立教大学 新座キャンパス
<http://www.rikkyo.ac.jp/>
〒 352-8588 埼玉県新座市北野 1-2-26

2018年7月発行



埼玉県知事とコミュニティ福祉学部の学生が意見交換。「防災」と「男性の育休」をテーマに政策提言

埼玉県知事と立教大生の意見交換会

2023/12/19

トピックス

OVERVIEW

2023年11月22日、大野元裕埼玉県知事とコミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科の学生による意見交換会を、立教大学新座キャンパスで開催しました。この取り組みは埼玉県と立教大学との包括連携協定に基づく連携推進の一環として、若者の感性を県政に生かしつつ、学生に生きた学習の場を提供することを目的としており、埼玉県内の私立大学では初の試みです。今回は「防災」と「男性の育休」をテーマに、同学科の原田峻ゼミと濱田江里子ゼミの学生が政策提言を行い、知事との意見交換に臨みました。

あいさつ

冒頭で西原廉太総長は「埼玉県にキャンパスを構える大学として、地域社会の一翼を担っていきたい。学生たちの提言を何らかの形で県政に生かしていただけるとうれしい」と語りました。続いて、大野元裕知事は「埼玉県が抱える『防災』と『超少子高齢化』という歴史的課題に対して提言をいただけるということで大変うれしく思っている。ぜひ率直なご意見をぶつけていただきたい」と学生たちに呼びかけました。



西原廉太総長



大野元裕埼玉県知事

学生による政策提言

コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科

原田ゼミ1班

タイトル：「あったか、ホッCAMP！～防災×アウトドア×大学～」

原田峻准教授のゼミナールからは「若い人たちに防災への興味を持ってもらうには」というテーマで2つの班がプレゼンテーションを行いました。1班は、若者の防災意識の低さ、これまでの防災に関する施策が若者を引きつけられていない現状に対し、「ワクワク要素」を含んだ体験が必要だと提案。昨今のキャンプブームに鑑み、アウトドアやキャンプと絡めた防災イベント「あったか、ホッCAMP！」を提言しました。

実施場所については、第1回目は立教大学新座キャンパスで試験的に実施し、徐々に埼玉県内の他の大学に広げていく構想を発表。また、従来の防災キャンプはファミリー層が多く、若者の参加を促進できない点を指摘し、ターゲットを「アウトドアやキャンプに興味がある若者」に絞りました。

具体的な実施内容として、次のようなプログラムを提案。「立ちかまど」を組み立てた野外炊飯。非常用発熱剤を使った調理。テント・寝袋・ランタン等の試用。キャンプ用品の展示会や参加者同士のフリーマーケット。bingo大会や星空鑑賞。映像による防災学習。段ボールベッドの作成・使用。これらの案をタイムスケジュールと合わせて紹介しました。加えて、運営組織図や各関係者が得られるメリット、想定費用などの説明がありました。



原田ゼミ1班

以上のような防災イベントが、個人の防災意識改革と、防災に対する強固な基盤作りにつながると強調した1班。

「埼玉を防災意識改革のパイオニアに～埼玉から全国へ！～」というメッセージで提言を締めくくりました。

原田ゼミ2班

タイトル：「LINEでミヂカ防災～ポイ活で防災を知る第一歩に～」

2班は、さまざまな調査結果から、防災施設や防災イベントに興味を持つ若者が少ないと、若者が防災に触れるハードルが高いことを課題として提示。そして、多くの若者になじみ深いコミュニケーションアプリ「LINE」を活用して防災意識を高める施策を提言しました。

そのスキームは、埼玉県LINE公式アカウントと連携したポイント制度を構築し、防災クイズや、防災施設・防災イベントへの訪問を通してポイントが貯まり、各種景品と交換できるというもの。他の自治体での先行事例も紹介しつつ、詳細をガイドブックや防災ポイントの画面などを交えて解説しました。

また、ツールとして「LINE」を採用した理由、クイズ形式を取り入れた理由などについて調査結果をもとに説明。景品にはアイスクリームの「LINEギフト」や、埼玉県にちなんだスポーツやアニメとコラボしたグッズを採用するアイデアを提案。さらに、3ヵ月周期という実施期間や、資金の調達にガバメントクラウドファンディング（政府や自治体が行う寄付制度）を活用するといった案を披露しました。



原田ゼミ2班

コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科

濱田ゼミ

タイトル：「埼玉県の中小企業から始まる男性の育児休業取得促進」

濱田江里子准教授のゼミナールは「男性の育休」をテーマとして取り上げました。まず、法律で定められた制度であり、労働者の権利であるにもかかわらず、低い取得率に留まっている男性育休の実態を説明。そして、埼玉県内の企業の99.8%が中小企業であり、そのうち半数程度の企業が人手不足に陥っている現状から、中小企業に特化した男性育休推進の施策を提言しました。

男性育休取得における課題として「人手不足／業務引継ぎ」「知識不足」「社内の雰囲気」の3つを提示。それを解決するために提案したのが「地域業務委託システム」です。



濱田ゼミ

「防災を身边に感じてもらうためのきっかけは何でもいい。できることから一つずつ取り組んではほしい」というメッセージとともに発表を終えました。



濱田ゼミ

人手不足については、これまで派遣会社などから人員を補うことが解決方法だと考えられていました。しかし、派遣された人に業務引継ぎや人間関係構築などの負担があり、「業務委託」という形をとることでデメリットを最小限にしようというのが、この施策の狙いだといいます。

システム上では、「業種」「所有している機械」「受託可能な業務」といった条件で企業の検索が可能。ただし、委託するとなると、自社で仕事をこなしていた時よりも利益が減少します。そこで、業務委託に対する助成金の申請をシステム上で簡略化する仕組みを提案しました。

育休への知識不足に対しては「育休パパコミュニティ」を設置し、経験者から有益な情報を得られる仕組みを整備。また、「社内ポータルサイト」を設け、社員の育休取得率、育休に対する意識などを共有し、育休を取得しづらい雰囲気の改善を図ります。「これらのツールの相乗効果で、男性育休取得に関する課題を解決したい」として、提言を締めくくりました。

各グループのプレゼンテーション後は、大野知事と西原総長、学生による質疑応答があり、活発な意見交換が展開されました。

意見交換会を終えて

大野 元裕 埼玉県知事

時間をかけて政策を作り込んでいただいた様子が見え、感心しました。提言の中身は、目からうろこが落ちるようなもの、将来につなげていくことが可能なものがあり、我々としても大変ありがとうございました。

西原 廉太 総長

埼玉県にキャンパスを構える私立大学で初めて県への政策提言の場を設けていただき、大変光栄に感じています。新座キャンパスには4つの学部がありますので、このような機会を他の学部にも広げていけるとうれしく思います。



屋田 章吾さん（原田ゼミ1班）

学生ならではの政策提言ができたという手応えはありました。質疑応答では発言に少し矛盾が生じてしまい、自分たちの主張をうまく伝えることができなかつたので、その反省を今後に生かしたいです。

静間 優花さん（原田ゼミ1班）

防災について調べ、政策を考える中で、私自身も防災に対する意識が高まりました。知事の前で発表するのは緊張しましたし、主張を時間内に収めるのは大変でしたが、自分たちの考えをしっかりと伝えることができたと思います。

庄司 歩さん（原田ゼミ2班）

半年前くらいから週2~3回のペースで集まり準備を進めてきました。「こんな提言をしても大丈夫かな……」という不安はありましたが、知事に自分たちの気持ちを受け止めていただき、ホッとしています。

小堂 佳波さん（濱田ゼミ）

知事に政策提言を行うのはとても緊張しました。貴重な機会をいただき、光栄に思います。今回の経験を通して、目的意識を持って学習に取り組むことができ、チームの結束力や集中力が高まったと感じています。

李 佳俊さん（濱田ゼミ）

自分たちが政治に影響を及ぼすことができる機会はなかなかないのでは、参加できてうれしく思います。人前で自分たちの考えを伝える難しさを実感しましたが、今は充実感でいっぱいです。

※学生は、いずれもコミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科3年次。



原田ゼミ



濱田ゼミ

※記事の内容は取材時点のものであり、最新の情報とは異なる場合があります。